

令和元年度庁舎建設特別委員会視察報告会要点記録

日 時：令和元年12月9日 16:00～16:30

場 所：第1委員会室

出席者：委員長 京西且哲

副委員長 倉田賢一郎

委員 反甫旭 南加代子 岩崎雅秋 雪本清浩 鳥居宏次 岸田厚

視察先：11月29日実施

環境事務所（環境課）、職員会館（人事課）、本庁舎横会議室（総務管財課）、文化会館（文化国際課）、磯ノ上下水処理場（施設課）

12月2日実施

学校給食センター（学校給食課）、保健センター（保健部長）、本庁舎周辺石垣（郷土文化課）、中央地区公民館（生涯学習課）

報告会要点

新庁舎へ移動することが検討されている各課を視察したが、原課の意見が十分に調査されていなかった。全ての課を本庁に移すと、必要面積が増え153億円もの建設費用が必要となる。課によっては現状のほうが良いとの意見も聞かれたため、原課の意見もしっかりと考慮すべきである。また、庁舎建替に際して20年30年後を見据えてICTを活用した業務改善を検討してほしい。

ワークショップやアンケートが実施されているにもかかわらず、あまり活かされているようには感じられなかった。明らかに原課との調整不足である。

各課と連携できていない。これまでの経過が不透明で、新庁舎の算定面積の根拠がよくわからない。文化会館の美術品収蔵スペースの必要性には疑問がある。環境課については本庁への移動をよく検討してほしい。

まず建設費用が大きすぎる。環境課の移動については業者に対するメリットのみであり環境課は現状が良いのではないか。職員会館については共用部分を含めたすべての面積が算定されているが、執務スペースだけでよいのではないか。文化国際課が本庁に移動した場合、文化会館の管理者を別に置く必要があり無駄ではないのか。磯ノ上下水処理場については水質検査等現場での管理業務があるので現状が望ましいのではないか。学校給食センターについても食材の現

品検査等、管理業務があるため現状が望ましいと考える。中央地区公民館については、生涯学習課が公民館の運営を行っているが、そもそも運営については別の職員を配置するべきではないか。各課に対して十分な説明がなくどのような調査がなされたのかわからない。

今回の視察で、机上ではわからないことが見えてきた。中間報告とのギャップがあるように感じられる。本庁にどのような機能を持たせるのか、各課が本庁へ移動した場合の空きスペースをどのように活用するのかをしっかりと検討してほしい。また、会議室や倉庫なども含めしっかりと面積の算定をしてほしい。

今回の視察を通じて改めて役所は縦割りであると感じた。文化国際課の移動とマドカホールの委託管理については機構改革を含めた検討が必要である。保健センターは部長席のみの移動なので、必要なのであれば庁舎建替にかかわらず、すぐに対応するべきではないか。

原課の意見がどのようなプロセスで聞き取られたのか不明瞭である。今後進めるうえでは、原課の意見の聞き取りがどのようなプロセスで実施されるのか明らかにするべきである。

すべてにおいて協議不足であると感じた。今回の中間報告作成にあたって現場の声を全く聴いていないのは明らかである。各課が移動することによって生まれる空きスペースはどのように活用するのか検討されておらず、単なる無駄なスペースになってしまいかねない。市民のためにもしっかりと無駄を省いて庁舎建替のコストを抑えなければならない。今後は原課の意見をよく聴いて進めてほしい。

以上